

平成 24 年度事業計画書 (案)

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

I. 公益事業

1. 学術講演会の開催 (定款第 4 条第 1 号)

第 108 回日本精神神経学会総会として、齋藤利和会長のもとに、平成 24 年 5 月 24 日、25 日、26 日の 3 日間、札幌コンベンションセンター (札幌市白石区東札幌 6-1-1)、札幌市産業振興センター (札幌市白石区東札幌 5-1-1) において、下記の学術講演会を開催する。

記

基本テーマ：「新たなる連携と統合—多様な精神医学・医療の展開を求めて—」

I. 会長講演

齋藤利和：依存精神医学からの発信

II. 特別講演

1. 樋口輝彦：これからの精神医学・医療の課題
2. Dilip V. Jeste : Successful Aging
3. Helen Herrman : Youth mental health in Australia

III. 招待講演

1. Boris Tabakoff : Turning Liking into Wanting: the Motivational Neurobiology of Alcoholism
2. Pichet Udomratn : Postgraduate Training in Psychiatry for Future Asian Psychiatrists
3. German E Berrios : The Concept of Mental Symptom
4. Malcom Hopwood : The Mental Health Response to the 2009 Victorian Bushfires

IV. シンポジウム

1. “患者にやさしい医療面接” から “こころを癒す精神療法” へ (6 題)
2. 発達障害再考：診断閾値の臨床的意義を問い直す (6 題)
3. 日本・中国、グローバリゼーションの陰にある邦人の精神保健 (6 題)
4. 社会性に関わる脳機能の異常と環境因子との関連 (6 題)
5. ひきこもりの精神医学的意義：文化依存症候群か普遍的現象か (6 題)
6. 未来を見すえた戦前の精神医療史 (4 題)
7. パーソナリティ障害の臨床 (4 題)
8. 不安障害の現在とこれから～DSM-5 に向けての展望と課題 (5 題)
9. 日常臨床と精神分析 (4 題)
10. 統合失調症の認知行動療法 (CBTp) ・わが国での現状と今後の展望 (5 題)
11. 成人期の ADHD における診断および治療上の課題 (5 題)
12. 社会生活の向上を目指す SST～認知機能障害に焦点を当てて～ (5 題)
13. 誰にでもできる薬物依存症治療 (4 題)
14. 急性精神病の診断と治療における精神科医の立場—DSM-5 の臨床的有用性と問題点 (4 題)

15. 被虐待児と発達障害児の生物学的関係、特にエピジェネティクスについて (5題)
16. 東日本大震災、および福島原発事故による精神疾患の初発、増悪事例の検討 (4題)
17. 老年精神科における終末期医療のあり方 (4題)
18. 「ひきこもり」の多角的検討 (4題)
19. 思春期の力動的入院治療—理論と実践 (5題)
20. アウトリーチ支援活動における民間医療機関の役割と公的機関の役割 (5題)
21. 精神科臨床倫理の諸側面 (6題)
22. 精神科医が学校精神保健に果たす役割：早期発見、支援の現状と課題 (4題)
23. 若手が質の良い臨床研究を行うために：英国の臨床疫学に学ぶ新しい研究方法論 (6題)
24. 公的総合病院精神科の役割を見直す (4題)
25. 支援者の支援：東日本大震災後の社会的課題 (4題)
26. 不安障害の病態・診断・治療の最前線 (4題)
27. 生活困窮者の支援とメンタルヘルス (5題)
28. 多職種協働による災害支援 (6題)
29. 精神科における強制医療介入 (5題)
30. 医療計画の見直しは精神科医療改革に寄与しうるか？ (4題)
31. 精神科臨床における治療関係のつくりかた (6題)
32. 労災認定の動向と今後の課題～労災認定の基準に関する専門検討会を踏まえて～ (4題)
33. 統合失調症早期支援とアンチスティグマ (仮) (3題)
34. 電気けいれん療法 (ECT) におけるパルス波治療器における検討課題 (6題)
35. 精神科専門医制度への信頼と魅力を獲得するために—卒後研修委員会提案シンポジウム (5題)
36. 精神科専門用語の再検討、—特に、改訂7版に向けて— (4題)
37. 精神科医療における自殺予防 (5題)
38. ICD-11 作成の最近の動向 (3題)
39. 認知症医療・ケアの諸課題、分子病態からケアまで (5題)
40. てんかん診療の最前線 (6題)
41. 当抑うつ症候群の形成機序と疾病分類問題 (5題)
42. 文化を跨ぐ精神医学—多文化共生社会における精神医学の視点 (5題)
43. 総合病院精神科における多職種チームの発展性 (4題)
44. がん医療において精神科医に期待される役割 (4題)
45. 思春期・青年期の性と性同一性障害 (性同一性障害 (GID) 学会連携シンポジウム) (6題)
46. 精神科デイケア治療のエビデンスと医療経済 (5題)
47. 早期介入の実際と工夫 (6題)
48. 青年期以後の広汎性発達障害の診断と対応 (4題)
49. 薬物依存の基礎から臨床、そして日常診療との関わりについて (5題)
50. 成人の精神障害における発達障害傾向の評価と対応 (5題)
51. 国際シンポジウム
 1. Postgraduate training of the world : to curve a good psychiatrist (5題)

2. Addiction (7題)

3. Disaster (7題)

V. 先達に聞く

1. 森温理：精神神経学会との絆
2. 山内俊雄：精神科医はどこに行くのか
3. 笠原嘉：クリニック精神科医の経験から
4. 山下格：見逃されてきたもの

VI. 教育講演

1. 大石智・宮岡等：精神科医療における地域連携
2. 大野裕：認知行動療法の実際と今後の展望
3. 市川宏伸：児童青年精神医学入門
4. 須原哲也：気分障害の分子イメージング
5. 切池信夫：摂食障害患者の外来治療について
6. 福田正人：臨床神経生理学から見た精神疾患の病態生理
7. 坂野雄二：不安障害に対する認知行動療法:エクスポージャー法をどのように導入するか、そのコツを探る
8. 野村聡一郎：双極性障害の治療、エビデンスと個人的見解
9. 西村良二：精神療法の進め方
10. 樋口進：アルコール使用障害の診断と治療
11. 山脇成人：脳科学からみたうつ病の病態生理・精神病理・精神療法
12. 千葉茂：精神科専門医のための睡眠精神医学
13. 松永千秋：性同一性障害の概念と治療
14. 堀口淳：症状精神病～故きを温ね、新しきを創る～
15. 中村純：職場におけるうつ病の早期発見・早期介入
16. 神庭重信：うつ病臨床の再構築：進化心理学と社会心理学の視点から
17. 笠井清登：若手精神科医の皆さんへ：アカデミアとコミュニティの融合による New Way of Working (NWW) for Psychiatrists
18. 朝田隆：老年精神医学入門
19. 松本俊彦：自傷行為の理解と援助
20. 岩田仲生：精神疾患の遺伝環境相互作用
21. 青木省三：改めて、成人期の発達障害について考える
22. 大森哲郎：統合失調症の薬物療法・新規薬は本当に優れているのか
23. 高橋祥友：ポストベンション：患者の自殺にどう向き合うか
24. 丹羽真一：統合失調症の概念と診断
25. 本橋伸高：電気けいれん療法のゆくえ

VII. 精神医学・医療奨励賞受賞講演・フォリア賞受賞講演

VIII. 症例検討会

1. 重篤な身体合併症をもった摂食障害の対応

2. 非定型うつ病の治療

IX. 精神医学研修コース

1. 「性同一性障害に関する診断と治療」の臨床 (6 題)
2. 精神腫瘍学の臨床実践コース (9 題)
3. 気分障害・不安障害の標準的薬物療法 (4 題)
4. 双極性障害の治療と心理社会教育 (5 題)
5. 精神科医が知っておくべき器質性精神障害の新知識 (5 題)
6. 双極性障害の診断：軽躁状態や気質に焦点をあてて (4 題)
7. 認知症 (若年性認知症、BPSD) (3 題)
8. 依存症治療最前線ー予防から回復支援までー (5 題)
9. もっとエビデンス、さっとエビデンス：一人一人の患者さんにエビデンスを応用するためのワークショップ
10. 精神科臨床と病態解明研究に必要な神経病理学的アプローチ：神経病理診断・死後脳研究・日本版ブレインバンクの方法論 (6 題)

X. 市民公開講座

○ コメディカル向け公開講座

ー間違いだらけの大人の発達障害診断ー正しい理解が支援につながるー

1. 統合失調症の今日的理解と対処
2. 気づいて下さい、こころのサインにーストレスケア外来の最前線からー

X I. 一般演題 (口演・ポスターを含む)

X II. 生涯教育研修会

2. 機関誌および学術図書の刊行 (定款第 4 条第 2 号)

- (1) 機関誌「和文誌ー精神神経学雑誌」の第 114 巻第 4 号から第 12 号までおよび第 115 巻第 1 号から第 3 号までの 12 号分 (1 号平均 150 頁) を刊行する。

発行部数は、各 15,500 部。

- (2) 機関誌「英文誌ーPsychiatry and Clinical Neurosciences」の第 66 巻第 3 号から第 7 号までおよび第 67 巻第 1 号から第 2 号までの 7 号分 (年間 810 頁) を刊行する。

発行部数は、紙雑誌 600 部。電子版により全会員が閲覧可能。発行 1 年後より一般の方も電子版全文閲覧可能。

3. その他目的を達成するために必要な事業 (定款第 4 条第 3 号)

- (1) 各種委員会を設置し、各所管の事項を審議し、それにもとづいた活動を行なう。
- (2) 国際組織など [世界精神医学会 (WPA) その他] との連絡および国際学術交流に関する事業。
- (3) 情報に関する事業
インターネット・ホームページでの情報提供を行う。
- (4) 会員向けメールマガジンの送付を行う。
- (5) 「精神医学・医療奨励賞」・「フォリア賞」の授賞を行う。
- (6) 精神科専門医制度に関する事業を行う。

(7) その他

II. 収益事業

1. 出版事業（定款第4条第2号の一部）

- (1) 「日本精神神経学会百年史」の販売をする。
- (2) 「WPAコンセンサス・ステートメント 第二世代抗精神病薬」の販売をする。
- (3) 「精神神経学用語集」新訂版（2011）を出版・販売をする。

以上